

ボスニア支援へ 27日調査団派遣

AMDA 日本のNGOで初

という。

調査団のメンバーは日本から出向く信州大学医学部の医師ら二人と既にクロアチアで救援活動をしている一人の計三人。二月十日までボスニアの首都サラエボなど三都市で、住民の不足物資、衛生状態などを調査し、どういう支援体制が可能かを探る。

これを基に四月以降、十人程度のチームを派遣、本格的な救援活動に乗り出す考え。

アジア医師連絡協議会（AMDA、本部岡山市）は十七日、昨年末、包括和平協定が調印されたボスニア・ヘルツェゴビナで医療などの支援を行うため、調査団を二十七日に派遣すると発表した。わが国のNGO（非政府組織）が、ボスニアで活動するのは初めて

ボスニアは和平調印後、NATO（北大西洋条約機構）主導の軍が投入されているが、小競り合いが続いている。一方、ボスニア各地に難民が帰還を始めており、医薬品、食料、衣料などが不足。電気、ガス、水道などライフラインがまひしている。